

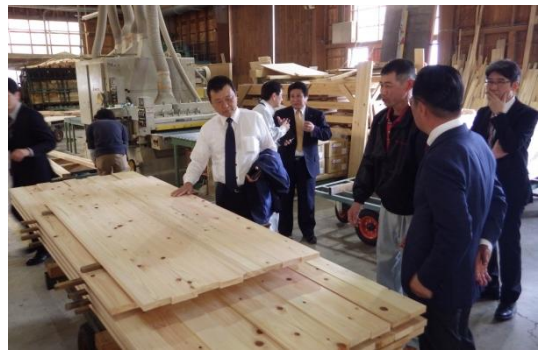
特集！！ハルちゃんが行く！！

～韓国総領事の製材所視察～



ハルちゃん

四万十町は、四万十ヒノキと呼ばれる良質なヒノキの産地であることから、昔から製材業が盛んで、役物を始め良質な製品を供給してきました。しかし、国内では住宅着工数の低迷などにより、需要も減少していることから、海外での販路開拓を模索しています。韓国では、富裕層を中心に主に住居の内装に日本産のヒノキを利用するための需要が高まっています。四万十ヒノキの特徴である淡い赤みや品質の高さは、韓国でも高く評価されているそうです。四万十ヒノキについて知ろうと、広島から韓国総領事と木材関係会社の方が来高し、四万十町にある四万十町森林組合大正集成材工場と、共栄木材（有）を視察しましたので、その様子をご報告します。



大正集成材工場を視察する様子

四万十町森林組合大正集成材工場では、四万十ヒノキの板を貼り合わせて集成材を製造するとともに、集成材を加工して家具などの製品を製造・販売しています。最近では、無印良品で販売されたボックスや、シモンズのベッドのフレームも手掛けています。韓国総領事は集成材の製造工程を視察し、工場長による説明に熱心に聞き入っていました。

共栄木材（有）では、木製の樽の工場を視察しました。丸い蓋と底や弧状の側面の板が製造されていました。こちらはインテリアとしての需要が高いそうです。



共栄木材（有）で製造された樽のパーツ



四万十町長（左）と韓国総領事（右）

四万十町は、四万十川流域の地域が連携して優良なヒノキの生産と利用促進に取り組むための組織である「四万十ヒノキブランド化推進協議会」の会員の1者です。この日は四万十町長も視察に同行し、四万十ヒノキのPRを行いました。

須崎林業事務所も管内製材所の外商をバックアップできるよう、連携を図りながら取り組んでいきたいと思ひます。